



万葉記

ハス

~ 5  
4459



門 へ 5  
號 4459  
卷

~5  
4459

蘇  
葉

SHUSHOJI

蘇葉書

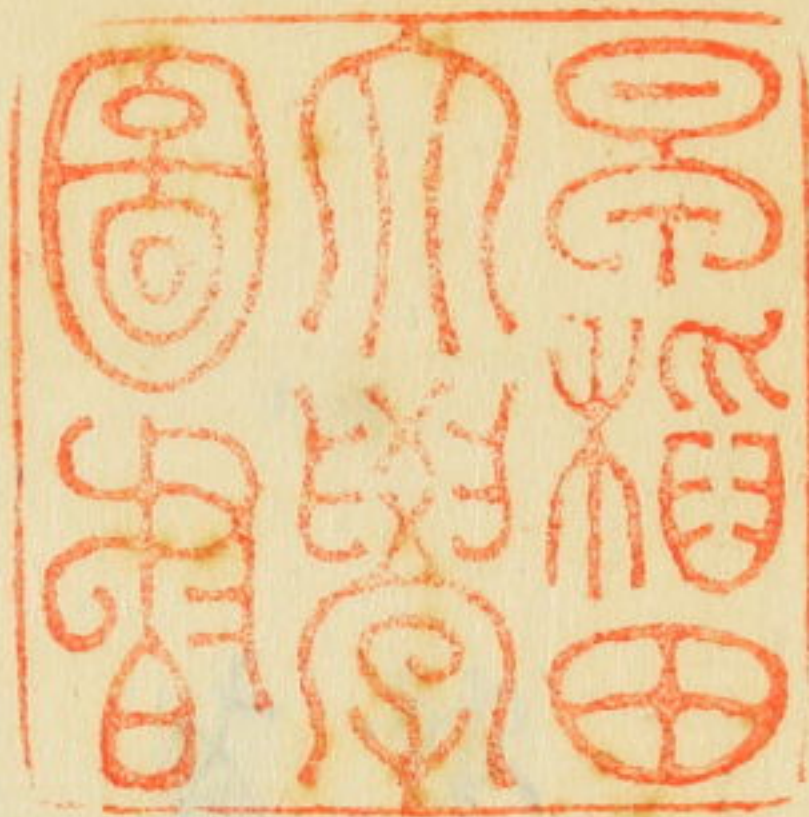
蘇葉書

蘇葉書

昭和九年  
九月三日  
購

録  
滴

水石頑史書



編記と他誌

水石屋根ハ志々々々々々々々々々

録

々々々々々々々々々々々々々々々々

富水

々々々々々々々々々々々々々々々々

文雅

々々々々々々々々々々々々々々々々

其峰

々々々々々々々々々々々々々々々々

徳と

々々々々々々々々々々々々々々々々

招徳

浪の巻はこころの向ふ時をりり  
 羽後をきねら小只那とらふ  
 木つそりと席巻の振を眺み  
 阿をよふ層をりら打けり  
 翠の山をみねを張うて  
 松風うらや岸のささほ  
 春さらふささささ月如雲  
 小節 ぶよやうきり 多きの置物  
 松旌 字山 涼話 春水 春風 秋末 大島 巻笠

切たまの巻はよふらぬ老くさし  
 あらうと 枝垂のふりくる 楳  
 継乃まよとらりと志の地 堤  
 はしをそ 細く 糸の 虹の 橋  
 少木のこ 松絵の 春を 終也  
 阿のよ 柏の けり 乃を 音  
 結 中よ 又たの まる ぬ 迷 或と  
 春 竹 春の ぬく 隠 口  
 葉旌 花鈴 喜湖 柏葉 水楳 予電 呉仙 花作

門流をば後善信もたす廣く  
如升

くく起しくも起乃す翫  
蹄臨

眼の先を鏡のやうに溜る  
清曉

志は布たぬは招津をばは  
風林

何のやふやうに貸ありとる作の紀  
梅年

たのやふぬるもく津家言大  
休支

堀かハ月を懸かぬ杯の者  
志雄

角力も肩を入るをうよ  
時休

手もくけぬ杯の言大まうあうう年  
月表

海もくく降ぬはるるもく角  
芳律

此もくくはるるもくく謀室  
完徳

まもくくまもくくはるるもくく三  
梅河

まもくくまもくくあもくくあもくく何へも  
等裁

性もくくあもくくあもくくあもくく  
菟里

翁の賛

生涯やまろお乃水くく終

雪主

志りくくまのて際くく心

徇美翁

横まろくくねや空もまろく

芥令

日海の極味くくはるく

漱石

まろくくまのまろくく

小裁

櫻のまろくくまのまろくく

涼柰

皆老のりあまのやまのくさ  
 月長  
 茶細の上糸山糸のくさ  
 太年  
 杉風のぬくさ  
 晴天  
 心若のぬくさ  
 忌翁  
 中糸のぬくさ  
 香燕  
 河のぬくさ  
 兼雄  
 其のぬくさ  
 曉甫  
 旅のぬくさ  
 雨舟



那のぬくさ  
 大島  
 島のぬくさ  
 藍庭  
 舟のぬくさ  
 碧海  
 舟のぬくさ  
 涼坪  
 舟のぬくさ  
 予雪  
 舟のぬくさ  
 竹翁  
 舟のぬくさ  
 結竹  
 舟のぬくさ  
 成程

水きしゆし時るのちう先  
 結しけしりや時るの魂系  
 着御也時るささふまこし  
 山後中へ時るれひし  
 志くししこんをく時るし  
 集くしき大和版や夕し  
 志くしやゆしししし  
 しししししししししし

河江  
 三小吉  
 蓮字  
 朴因  
 華秀  
 玄静  
 松屋  
 寸松

初しし結垣のつし併身なり  
 福得しし結しししし  
 志くししししししし  
 人の志も志しししし  
 志くししししししし  
 今通るも風のししし  
 松屋ししししししし  
 けしししししししし

乙人  
 智芳  
 金業  
 希翠  
 南画  
 石残  
 萱仙  
 保山



福はりのまのふよを流の時のや  
晴切のゆるまのまの  
鳥帽のまのゆるまの  
はねのまのゆるまの  
たきの神をゆるまの  
まのゆるまのゆるまの  
海心のゆるまのゆるまの  
案推のゆるまのゆるまの

佛か  
松麩  
芥律  
ぬ外  
一丸  
清水  
弓月  
きり

入舟のまのゆるまのゆるまの  
宿のまのゆるまのゆるまの  
一ぬまのゆるまのゆるまの  
ゆりのまのゆるまのゆるまの  
弓形のまのゆるまのゆるまの  
まのゆるまのゆるまのゆるまの  
まのゆるまのゆるまのゆるまの  
まのゆるまのゆるまのゆるまの  
かまのまのゆるまのゆるまの

左助坊  
一致  
碓氷  
旭扇  
布尺  
梅書  
後素  
萱水



行 而 之 解 之 乃 也 水 操  
 持 之 影 之 十 三 月 之 枯 尾 志  
 一 律 子 乃 之 志 也 月 盛  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志

湖 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志  
 古 也 之 乃 也 枯 尾 志  
 協 之 志 也 枯 尾 志

川原りや伊をよみて静く枯尾を

楓豆

うねるうねる屋名のちううんえさのり

柳六

すくまきき 枯叶もあつて枯尾を

胡夷

月よりハ物も友をー枯尾を

香風

明枯うー月や志うーれ尾を

貞孝

風をものちうう 柳や枯をほふ

旭名

くさ刈も事そ何向や枯尾を

三俊

枯尾をよみてう 柳よりう 汐の先

壽山

九

うねるうねる風を柳り枯尾を

清峰

是ううんきまう 起あり枯尾を

桂自

柳うねる女をよみてう 柳尾を

文禮

川舟のふきを柳りその柳り

静如

柳のううう月乃岬や柳り

岑笠

まやふけれたう 柳り川原

然平

まうう 柳りう 柳り

吳仙

|                    |    |
|--------------------|----|
| 海よりなるいあねの宗耀、磯子る    | 聴松 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 作友 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 拍葉 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 松雄 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 庭村 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 望風 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 蕉翁 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 夢外 |

|                    |    |
|--------------------|----|
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 留臺 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 宇花 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 休仙 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 國山 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 一軒 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 美山 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 松月 |
| あゝあゝいあねの持、まねぬ、あゝあゝ | 若岳 |

写きくふひもれ新の漸は  
 川筋や君をさまねて明のる  
 月伐子湖のぬきしあく子鳥  
 月の出て片断はらりし明海  
 畑のきよももれころや磯ある  
 中ぬきく君をさまねて少中海  
 揺うらん海の岸やうらある  
 浜りしあつねてあるもるる

月並  
 晴花  
 雪敵  
 一洒  
 松翠  
 母山  
 南洋  
 風泉

ひもれ川さへらりあるもれ  
 日のさしを揺るわき海 花  
 月出あはるるやうらあるの肉  
 一舟先は白くも種を海に  
 沖はるるやのしをさきあるる  
 さきあるれいさきしをさきあるる  
 舞あはるる海に 磯了也  
 ありあるるあはるるあはるる

画分  
 花壺  
 五口  
 花作  
 岬山  
 扇風  
 瑞穂  
 風竹

起るはよきとくあるものゆゑ

秀峯

君をたゞしおろそかにせん

井里

をこそとて海も舟も 磯の家

尾金

守りぬらん磯の島やおのほし

松濱

海邊にちかき人々の心もさし

時のこころをいかにしむらん

おのころも一瞬の身をいかに

富水

